

会議名	第3回学校運営協議会 議事録		
場 所	大阪府立すながわ高等支援学校4階 校長室		
日 時	令和7年2月5日（水） 10:00~12:00		
目 的	学校運営協議会は、保護者等との連携協力、学校運営の方針についての協議及び承認、保護者等の意向の反映のために設置する、大阪府教育庁の附属機関である。		
次 第	(1) 校長挨拶 (2) 協議 「令和6年度学校経営計画について（自己評価）」 ・学校教育自己診断アンケート ・授業アンケート集計結果について 「令和7年度学校経営計画（案）について」 (3) 意見交換・まとめ (4) 校長挨拶		
学校運営協議会	会 長	四天王寺大学教育学部教育学科教授	土口 千恵子 様
	副会長	株式会社カネシン オートボックス	辻 昭宏 様
	委 員	泉州中障害者就業・生活支援センター	斉喜 祐輔 様
	委 員	株式会社サクセス 自立支援推進室長	河本 妙子 様
	委 員	泉南市 行政経営部 危機管理課	小原 成裕 様
	委 員	すながわ高等支援学校PTA会長	内畑谷 みか 様
	校 長	すながわ高等支援学校校長	加納 由朗
		すながわ高等支援学校事務局	9名

会 議 内 容

要約 令和6年度学校経営計画の評価について事務局より報告があり、意見交換がなされた。今年度の本校の取組みについて総括をおこない、次年度の学校経営計画作成にむけて協議した。

協議テーマについてのご質問・ご意見

令和6年度学校経営計画について、校長より学校教育自己診断の結果と分析について報告があった。

○学校教育自己診断アンケートの集計結果について、進路指導の項目で肯定的評価が生徒94%、保護者96%と昨年度よりポイントが増加していることを受け、次年度も今年度の取組を継続するとともに、日常生活に反映できる「対話・遊び・学習力・体験学習」を通じて知識の定着を図り、生徒・保護者・教員の声をボトムアップできるように改善していきたいと説明があった。

○保護者のアンケートについては、今年度QRコードを用いた回答を導入したがうまく浸透せず、2度にわたってアナウンスしたが回収率が76%に留まったことが説明された。アンケートの意義や回答結果がどのように活用されるのかをもっと明確に保護者に示す必要があることや、アンケートを取るタイミングなどについて活発な意見がなされた。

○今年度の重点目標である、教員の「支援教育の専門性と社会人としての資質向上」については、通信事業者、大阪体育大学と連携した指導教諭による公開研究授業を実施し、一定の成果を出している。本校教員の平均年齢は39.4歳と若いため、より指導力育成に力を入れていく必要がある。次年度は若手教員がベテラン教員の授業を参考にできるなど、教員全員を対象にした研究授業の立案と研究協議の実施を行い、生徒の実態に応じた学習形態の工夫ができる取組を行うことが報告された。

○生徒を対象に実施した授業アンケートの集計結果では、ICTの活用について肯定的評価96%だった。今後もICTの活用は必須であり、生徒が社会に出たときに困らず活用できる力につなげていく必要がある。デメリットも考慮しながら、個人の携帯を活用した授業など新たな授業の形も模索していく必要があることが共有された。

○令和7年度学校経営計画（案）については、自立活動を学習力の基盤とした、「主体的・対話的で深い学びと確かな学習力の育成」、「一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実」、「就労を通じた社会的自立で、生徒一人ひとりの能力を最大限に伸長」を中期的目標とすることが承認された。開校からこれまでに積み上げてきた成果を整理し、教職員全員で新たな移行期につながるスクラップ&ビルドの構築を行い、厳しいだけでなく温かさを感じる取組について新たなチャレンジをしていくことが共有された。委員の方からは、今後の広報活動について高等支援学校の取組をより一層地域に発信していくことの必要性や、就労支援の拠点校としての力をどのように発揮していくのかを計画に具体的に盛り込むことが必要であるご意見をいただき、今回の協議会の総括とした。

次回開催日 令和7年6月予定

作成者 大阪府立すながわ高等支援学校 首席 松浦 恵（令和7年2月6日作成）